



ORIENTEERING JAPAN

JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

'93/11

1993年〔平成5年〕11月10日発行

(毎月1回10日発行)

第10巻第11号通巻第124号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可







## 第16回筑波大学大会から (佐藤征男氏撮影)



雨降りて本部も持ちちぶさた



ゴール～大原小学校(会場)間の道路は長かった…雨の帰り道



甘酒のサービス

□今月の表紙：10月24日開催のショートインカレ、男子優勝・入江選手ゴール前の力走。

□今月の地図：10月17日開催の第16回筑波大学オリエンテーリング大会で使用した地図(2ページ=All Controls=全ポスト図, 23ページ=Control Descriptions=位置説明表)。

- =SQUAD REPORT= SQUAD 広報担当・桐田 幸宏 .....4-7  
 “WOC93終了(成績速報)”  
 “JWOC(ジュニア世界選手権)を終えて”  
 “SQUAD女子合宿のお知らせ”  
 “走の世界から”
- “第1回ショートインカレ”ほか 岩出 雅人.....8-11
- =イベント・リポート= .....12-13  
 「20周年記念岡崎市OL大会」 小野 盛光  
 「森林公園OL大会」 岡本 忠佳  
 「第13回山口大学工学部大会」 財間 定義  
 「第16回筑波大会OL大会」 佐藤 征男  
 「全米選手権で高橋厚さん3位入賞」 中野 喜美
- =各地の新聞から= .....14-15  
 “第14回長野県OL大会”  
 “第1回日本学生ショートOL大会”  
 “山岳耐久レース、オリエンティア大活躍”
- “ハイテクOL一步前進” 小澤 保昭.....16
- =High School-O =  
 “With You”——関東高連に入りませんか?——  
 木俣 知大.....17
- =投稿= “走の世界へ” 清水 潔.....18
- =オリエンティアのための本棚=  
 第4回: ジャスバソン: 文 エーカット: 絵 (河合雅雄訳)  
 「森はだれがつくったのだろう?」童話屋: 出版  
 文: 村越 真ノカット: 早川喜代美.....11
- =全国PC愛好会=  
 パーマネントコースりぼへと  
 窪田 宏明, 木佐木輝雄, 室井 孝介.....20-22
- =お知らせのページ= .....24

◆ ストリーマー ◆  
 ここ1~2年の間に100号, 2000ページという節目を通過し、先月10月は創刊以来10年を満了した月でした。然したる感慨も無く、みなさまから小誌に関するお言葉などお聞かせいただける答もありませんし、ただ淡々とワープロに向かい、出来上りを待って製本・発送にと時を過ごしております。オーストラリアの0誌の編集者、日本に馴染みの深い David Hogg 氏(連盟副会長)も、7年程携わっていたその編集の仕事、来年4月から離れるそうです。私も少し長かったかなあ…と感じる今日この頃です。

流人 ◆◆◆

# SQUAD REPORT

WOC SQUAD JAPAN はナショナルチームをサポートしています

## WOC 93 終了 (成績速報)

先月アメリカで開催された93年世界選手権大会(WOC)の結果は、右頁の通りとなった。

既にも誌上で紹介してきた通り、今回のWOCには、この春から夏にかけてのセクションレースで選抜された右記代表メンバーが参加した。

大会は、右記日程のとおりショート・クラシック・リレーの3種目で行われている。

ショートには全員が参加。全員が別々の組分けとなつての予選では、男女それぞれ上位10名までがAファイナルに出場できる。日本選手では村越真が惜しくも11位でBファイナルへ。男子は21位以降がCファイナル。村越以外は全員Cファイナルを走り、鹿島田・入江などが比較的好成績を取めた。女子は11位以降全員Bファイナルとなる。

クラシックでは、男子が鹿島田・国沢、女子は木植・福士がそれぞれ代表として参加した。

最終日のリレーは、男子が、村越一鹿島田一入江一国沢、女子が、木植一福士一宮本一金子のオーダーで臨んだ。男子、村越はつぼいたらしきノルウエーなどを抑えて15位で帰還。鹿島田が更に13位に上げて帰ってくる健闘を見せたが、惜しくも村越のペナで失格となった。女子は、3・4走が最下位から順位を上げ最終19位で終了した。

大会の詳細な報告については次号に掲載の予定である。今回は、男子の監督でもあった村越真のコメントをもって速報に替える。

### 【日程】

10/9	Short Distance	Semifinals
10/10	Short Distance	Finals
10/12	Classic Distance	
10/14	Relay	

### 【参加メンバー】

代表選手	村越 真
[男子]	鹿島田 浩二
	入江 崇
	吉田 勉
	国沢 五月

代表選手	木植 早生
[女子]	福士 淑子
	渡辺 初実
	金子 しのぶ
	宮本 知江子

リレー	山岸 倫也
	藤井 範久
	山本 英勝
	金田 収子

### 93年世界選手権(アメリカ)を終えて

去る10月の8日から15日にかけて、93年世界選手権がアメリカで開催された。日本からは1976年以来10回目の参加である。全般的に言って必ずしも満足いく結果が得られたとは言えないが、レース内容やショートでは納得できる結果が得られた。私たちは「世界の中で」闘える選手になったのである。

とりわけ今回の遠征で大きく評価できることは選手達が海外でのオリエンテーリングを特殊なもの、特別な準備を要求するものとしてとらえるのではなく、日本でのオリエンテーリングの延長としてごく自然に捉え、対応したいたことである。またそれに伴い実力を十分に発揮できた点である。今回は北欧にも匹敵する水河によって形成された地形で大会が開催され、コースも決して易しいものではなかったが、選手たちはそれを特別に意識しているようには見えなかった。テラインは違ってもやるべき手続きは同じであること、オリエンテーリングそのものは変わらないことを、私たちコーチ陣がフランスでのWM(87年)以来訴え続けた成果が出たものと言える。

もちろん結果自体は必ずしも満足できるものではない。男子リレーは1走の私が失格となり3、4走が走る機会を失った。個人的にもコーチという立場でも残念な結果となった。しかし鹿島田までの2走でトップと10分差の13位につける走りができただことは次回への大きな基盤となるだろう。女子リレーに関しても2走の福士が大きく後退し最下位を独走するかに見えたが、3、4走の宮本、金子がタイムをまとめた順位を挽回した。

まだまだ道のりは短くはないが、実際の競技の中で現実的な目標や課題をみつめることができたという意味では、日本チームにとっては実りの多いレースであったと言えるだろう。詳しい報告は来月号に掲載する。



## Short Distance Semifinals (シヨート予選)

MA	1	Petter Thoresen	NOR	24.08
	2	鹿島田 浩二		30.49
MB	1	Petri Forsman	FIN	23.45
	1	村越 真		27.33
MC	1	Mika Kuisma	FIN	23.48
	2	国沢 五月		30.08
MD	1	Timo Karppinen	FIN	23.34
	2	吉田 勉		33.45
ME	1	Sixten Sild	EST	24.48
	2	入江 崇		33.41
FA	1	Katalin Olah	HUN	21.15
	1	木植 早生		28.58
FB	1	Marlena Jansson	SWE	22.11
	1	宮本 知江子		29.42
FC	1	Annette Nilsson	SWE	22.44
	1	金子 しのぶ		34.30
FD	1	Marita Skogum	SWE	21.58
	2	渡辺 初実		34.45
FE	1	Sabrina Fesseler	SUI	22.08
	1	福士 淑子		29.46

## Short Distance Finals (シヨート決勝)

MA	1	Petter Thoresen	NOR	22.34
	2	Timo Karppinen	FIN	23.00
	3	Martin Johansson	SWE	23.26
MB	1	Olivier Coupat	FRA	23.01
	3	村越 真		28.23
MC	1	Edgaras Voveris	LTU	23.00
	6	鹿島田 浩二		26.02
	1	入江 崇		27.10
	1	国沢 五月		27.45
	2	吉田 勉		29.08
FA	1	Anna Bogren	SWE	20.39
	2	Marita Skogum	SWE	21.10
	3	Eija Koskivaara	FIN	21.11
FB	1	Petra Novotna	TCH	23.22
	3	福士 淑子		29.22
	4	宮本 知江子		29.38
	5	金子 しのぶ		36.03
	5	渡辺 初実		38.04
	5	木植 早生		41.05

## Classic Distance (M E N)

出走 8 6 人 13475m UP690m

1	Allan Mogensen	DEN	87.36
2	Jorgen Martensson	SWE	88.07
3	Petter Thoresen	NOR	89.28
4	Kent Olsson	SWE	90.18
5	Rolf Vestre	NOR	90.36
6	Dominik Humbel	SUI	90.51
5	鹿島田 浩二		115.47
7	国沢 五月		127.08

## Classic Distance (W O M E N)

出走 8 2 人 8625m UP410m

1	Marita Skogum	SWE	62.27
2	Annika Viilo	FIN	64.42
3	Yvette Hague	GBR	66.09
4	Eija Koskivaara	FIN	67.04
5	Kirsi Tiiira	FIN	67.37
6	Marlena Jansson	SWE	67.43
6	木植 早生		103.13
7	福士 淑子		114.17

## Relay (M E N)

1	Switzerland	217.16
2	Great Britain	217.31
3	Finland	218.20
4	Sweden	220.18
5	Russia	221.02
6	Norway	221.21
7	Denmark	223.18
8	Czech Republic	231.25
9	France	232.23
	:	
	:	
3	Spain	364.33
	Japan	Disqualified

## Relay (W O M E N)

1	Sweden	168.48
2	Norway	172.51
3	Finland	176.59
4	Czech Republic	180.29
5	Russia	190.47
6	Switzerland	191.11
7	Denmark	191.50
8	Hungary	192.21
9	Great Britain	192.37
	:	
	:	
1	United States	222.59
1	Ireland	262.23
1	Japan	292.06
2	Slovenia	292.55
2	Spain	362.50

## JWOC (ジュニア世界選手権) を終えて

去る7月、WOCに先立ちイタリアはボルツァノで開催されたジュニア世界選手権も既に終了し、日本代表メンバーも無事帰国した。

今回は、鈴木篤(早大2年)・諏訪高典(京大2年)・森泰祐(山口大2年)の3名が参加をしている。

成績については次号で報告をする予定であるが、鈴木篤君の参加記が届いているので先に紹介をしよう(右記)。

代表選手達にとっては有意義な遠征だったようである。来年度については下記のとおり選考基準が決まっているので希望者は挑戦されたい。



7/5 オープニングセレモニーで

### 94年JWOC代表選手選考について

94年のJWOCへの出場意思があるものは、94年1月末までにSQUADのJWOC担当者まで、住所・氏名・電話番号・生年月日・所属クラブ/学校名を明記して文書で意思表示をすること。94年のJWOCは7月前半にポランド北部のグディニアで開催される。

#### 【選考基準】

- 1 年齢制限  
1974年1月1日以降に生まれた者
- 2 実力基準  
O-Japan 8月号p11参照

#### 【SQUAD JWOC担当】

- 189 東京都東村山市美住町1-48-5  
利光 良平  
TEL 0423-94-9155

第1回からの参加国となって5年目。93JWOC JAPAN TEAMは7月25日にO-RINGEN終了をして解散し、8月16日の鈴木の帰国でそのエクスペディションのすべてを無事終えた。

それが世界選手権という競技である以上、結果に触れない訳にはいかない。総括すればショート、クラシックの両個人戦は惨敗であった。中には鈴木のショート失格も含まれ、3人が揃って崩れた為にまるで日本のジュニアのトップラインが本当にその辺りであるかのような印象となる結果であった。唯、メンバーも悲壮感に包まれ、ただならぬぬい合いで臨んだリレーにおいて例年を上回る成績をたたきだし、何とか収めることができたという次第である。

ヨーロッパのレベルの高さは事前から知ってはいたが、今回の遠征で本当に分かったという感じをつかめ、またそれが最も大切だったようにも思える。さらに今回のメンバーは交流に積極性がありトレキャンの時点から他国と合同練習を行い、大会終了後にイタリアのチームリーダー宅に宿泊させていただくほどであった。TEAMそのものも様々なトラブルをむしろ楽しんで乗り越え、よくまとまっていた。あとは残るは、今後の活動をもって今回の遠征の意義を示すべきであると心している。

最後に、様々な援助を下さったJOAの古賀事務局長、高橋氏に感謝の意を表わたく思います。ありがとうございました。以上をもって93年度ジュニア世界選手権の報告とさせていただきます。なお、別に詳細報告書を作成しておりますので興味がおありの方は大会会場などでご購入ください。

なお、この度のJWOCはプロの撮影による記録フィルムが製作され私が今まで見た中では、ひいき目なしに最高に「カッコよく」仕上げられております。大学の勧誘やOLの説明には非常によいものになると思います。入手されたい方はダビングいたしますのでご連絡ください。

鈴木 篤

TEL 0424-74-2900



7/5 開会式 入場行進前  
向かって右から、諏訪・鈴木・森の各選手

## SQUAD女子合宿のお知らせ

### 第7回 SQUAD女子合宿

と き：1993年12月11日(土)～12日(日)  
 ところ：静岡県 富士宮 (村山ジャンボ泊)

「OLがもっとうまくなりたいけど、どうしたらいいんだろう？」  
 「トレーニングやOLの技術のこと、身近に聞く人がいなくて」

そんな女子学生のために贈る、女性の女性による女性のための女子合宿。世界選手権メンバーをはじめ、昨年のユニバー選手やインカレメダリスト達が指導にあたります。OL技術はもちろん、普段のトレーニング内容や、レース前の心構えなど、日本の女性トップエリートランナーがあらゆる疑問にお答えします。

参加資格：原則として大学2～3年の女子でEクラス、もしくはそれを目指す人。

問い合わせ先：飯村 亜紀子  
 TEL 03-3718-8546

金子 しのぶ  
 TEL 0489-85-2414

申込締切：11月25日(木)

## 走の世界から

本誌でも別掲「走の世界へ」が連載されているが、SQUADのちょっとした関係として、富士登山駅伝を紹介してみたいと思う。右は、かっこよくテレビにも映ったという村越真氏の参加記である。

なお本SQUAD REPORTとは別稿になるが、10月に行われた第1回日本山岳耐久レース大会でのオリエンティアの活躍ぶりも紹介しておこう。

本誌が走るだけの大会をクローズアップしすぎることは、あまり望ましくもないと思っはいるが、今回はトピックスとして取り上げてみた。

毎年8月の第一日曜日に富士登山駅伝が開催される。この駅伝は御殿場の陸上競技場から日本一の富士山山頂までを往復する距離46キロ、標高差3220mの過酷なレースである。たださえ高山病を起こしそうな高地を走って登るのである。路面も砂地で、登りでは走り方に工夫がいるし、下りでは如何に自由落下に身体を任せられるかがタイム短縮の鍵となる。

最近是人気が増し、テレビ中継もされている。120チームもの参加があるが、その頂点に立つのはたいてい自衛隊のチームである。今年はエリート部隊である第一空挺団が昨年2位の雪辱をはたしていた。見るからにいい体格をした選手ばかりだったのが印象的だ。

OL界からは東大OLKとSQUAD(ナショナルチーム)そして今年から出場の脚の速さでは学生OL界No.1の東北大学OLCが参加した。東北大は事前にSQUADとOLKに「挑戦状」を送ってきたが、特殊環境下を走るこのレースではさすがにキャリアがものを言い、3チームの中では最下位の71位に終わった。SQUADは静大陸上部の助人を得たものの、純正メンバーである菅原琢や私も好調でこれまでで最高の22位を記録した。前回の順位がゼッケン番号となるこのレースで、来年は22なんていうとてつもなく若い番号をつけられると思うとワクワクする。ちなみに東大OLKも順位を上げ、58位であった。

次号予告 JWOC成績報告 APOC代表選手紹介 エリートポイント中間報告(with秋の公認大会)  
 ワールドカップ情報 延び延びになっているNT人物紹介(樋口一志・白井由美)  
 ※WOCの詳細は別掲載で報告します。

SQUAD広報担当 桐田幸宏



## 第1回 ショートインカレ

10月24日、長野県伊那市において第1回日本学生ショートオリエンテーリング選手権大会（ショートインカレ）が開催された。地図は『ますみヶ丘』、1988年に信州大学が作成した旧『ますみヶ丘』のなだらかな片斜面に新たに急峻な斜面を追加したもの。植生はおおむね良好でスピーディーなOLが期待できるテレンである。また、会場となった鳩吹公園は木曽駒ヶ岳を背に伊那市街を一望できる美しい公園で、秋空と相俵って絶好の舞台を提供してくれた。

### 予選

予選は旧『ますみヶ丘』の緩やかな斜面のみを使用する男子3100~3200m、女子2300mのコースで行われた。上位の結果は別記のとおりで、有力選手が軒並み上位で順当に決勝に進んだ。ショートタイプの予選の場合、力のある選手は前半順調にいった場合後半は流すことがあるが、今回の予選の場合それはほとんどなかったようだ。とくにHE-1で2位に2分の大差をつけてトップとなった入江は9月にハヶ岳で行われたトータスショート大会でよもやの予選落ちをしているだけに手を抜けないところだったのだろう。

また予選ではボーダーライン前後の選手が速報の出るたびに一喜一憂する光景が見られるのが常だが、男子HE-1では永田芳樹（東京3）と川上敏行（広島2）の2人が20位同タイムの27.04で並び、規定により両者決勝進出となった一方、女子DE-2では村上さおり（実践女子2）が1秒、岡部直子（日本女子大4）が4秒足りず涙を飲んだ。さすがにスピードを競うショートタイプのレースとあってまさに1分1秒が勝負だったといえる。

なお、男子の組によるタイムの差は主にコース差によるもの。

### 男子予選結果

#### HE-1

1	入江 崇（東北3）	21.01
2	安良 和寿（筑波3）	23.39
3	一瀬 建日（京都2）	23.45
4	芦名賢一郎（筑波4）	23.58
5	森田 満（静岡2）	23.59
6	早河 秀章（静岡4）	24.04
16	森 泰祐（山口2）	26.18

[20位 27.04 まで予選通過]

#### HE-2

1	岡安 隆史（千葉3）	22.31
2	鈴木 淳史（名古屋工業4）	23.25
3	山根 卓二（広島3）	23.42
4	鈴木 卓弥（東京4）	23.52
5	武田 光（早稲田4）	23.58
6	石澤 俊崇（早稲田1）	24.36
16	南條 伸穂（学習院4）	27.32

[20位 29.04 まで予選通過]

#### HE-3

1	鈴木 篤（早稲田2）	19.57
2	吉村 年史（広島3）	21.36
3	野中 俊樹（東京3）	21.38
4	小林 哲（静岡3）	21.56
5	高島 和宏（東北4）	21.58
6	小海 則人（筑波3）	22.05

[20位 25.38 まで予選通過]

#### [競技形式]

予選 男子3組各60人ずつ・女子3組各56人ずつ

1~20位 … 決勝

21~40位 … Bファイナル

41位~ … Cファイナル

決勝スタート

決勝…予選順位下位順で1組20位→2

組20位→3組20位→1組19位の順

B・Cファイナル…マスタート

### 女子予選結果

#### DE-1

1	酒井 佳子（北海道4）	21.13
2	三明 晴美（広島3）	21.24
3	山口 純子（名古屋2）	21.40
4	片岡由起子（筑波2）	22.02
5	白水 上枝（実践女子3）	24.11
6	高木貴美江（京都橘女子4）	25.02

[20位 28.24 まで予選通過]

#### DE-2

1	金並 由香（早稲田4）	20.22
1	金田 収子（静岡3）	20.22
3	稲村 仁美（広島3）	21.20
4	志村 聡子（早稲田3）	21.36
5	林 ゆかり（筑波2）	22.35
6	植田 佳子（広島3）	22.41

[20位 28.37 まで予選通過]



## 男子決勝

男子決勝は、前半で急斜面部分をコンタリング方向に進み、中盤⑤からの繋ぎ部分で一気に駆け降り会場前のビジュアルコントロール⑥を通過、後半は一転して緩斜面部分の直進となる4600mのコース。前半はパワフルな走りがそして後半では正確なコンパスワークが要求され、その切り替えに失敗すると痛い目にあいそうなコースである。

13:01トップスタート。ビジュアルコントロール横で観客が見守る中、最初に姿を見せたのは、2番スタートの永田芳樹、タイムは21.22。好タイムのようで暫くこれを更新する選手は出ない。11分後、南條伸穂(学習院4)、森素祐(山口2)の2人がバックで通過、それぞれ19.18、20.20と永田のタイムを更新する。南條は昨年の関東インカレのチャンピオンで一発の力を持つ。2人の通過とほぼ同じ頃、ゴールには最終コントロールを永田が通過との情報が放送される。永田ゴール、33.55。予選ギリギリの通過ながら勝負強さを見せる。このタイムは、ビジュアル通過と同じく南條30.51、森32.37に更新されるものの終盤の有力選手がゴールするまでは3位を維持し続けた。

その後ビジュアルのほうは、中盤スタートの松澤俊行(東北3)、永井孝雄(一橋2)、山本英勝(東京4)、太田晃弘(東京1)らが21~22分で通過する

が南條の通過タイムには及ばない。ゴールタイム差もほぼ同じか開く傾向にあり、後半の緩斜面での逆転は難しいようである。

予選順位5位以内、スタート順でラスト15人ほどに入ると、まず昨年の試行大会で2位に入った武田光(早稲田4)が、19.44でビジュアル通過。さらに、若干遅れるものの高島和宏(東北4)、鈴木卓弥(東京4)らが通過。そして、優勝候補の筆頭、世界選手権日本代表の入江崇(東北3)が、18.08と南條に1分以上の差をつけ通過する。

10分後、後半無難にまとめた入江が会場に再び姿を現しゴール。29.01とただ一人30分を切る会心のレースで記念すべき第1回のショートインカレのチャンピオンに輝いた。

## 女子決勝

女子も男子と同じく、前半が急斜面部分、後半が緩斜面部分を使用する3300m。男子の④⑤を削ったようなコースである。

13:01男子と同時にトップスタート。まず最初にビジュアルコントロールに姿を見せたのはトップスタートの澤地未来(大阪2)18.17。続いて2番スタートの蘆田由美子(京都橘女子3)18.20。この2人はほぼこのままの位置関係でゴール。蘆田35.09、澤地35.58。序盤のスタートの中では好タイムである。

澤地・蘆田の通過から7分後、山下和子(筑波3)17.05、角枝実(筑波3)18.15が続いて通過。女子の場合男子よりもバックで通過するケースが多い。

さらに6分後、原志保子(静岡2)が16.34で通過。この辺りが、終盤スタートの選手たちの目標タイムか。

山下が33.01とトップタイムを更新してゴールして間もなく、高木貴美江(京都橘女子4)が15.40、続いて1分後スタートの植田佳子(広島3)が15.37でビジュアルを通過すると、さらに予選順位上位の選手が次々とやってくる。

優勝候補の一人志村聡子(早稲田3)が1分前スタートの片岡由紀子(筑波2)、1分後スタートの山口純子(名古屋2)らとバックで通過。志村が16.00、山口が15.00ほど。結果的にはこの2人の関係が女子優勝の鍵を握っていたといえる。

約1分後、稲村仁美(広島3)が、15.20、いっしょにいるのは…、何と2分後の酒井佳子(北海道4)13.20での通過は圧倒的に早い。

男子は、ビジュアル通過の順位が大きく変動することなくゴールに結びついたが、女子は緩斜面の直進レグでドラマがあったようだ。

まずは高木と植田との関係。ビジュアルではスタートのタイム差がほぼ維持されていたわけだが、ゴールではこの差が至近距離までつまり高木が31.01、植田が30.14。

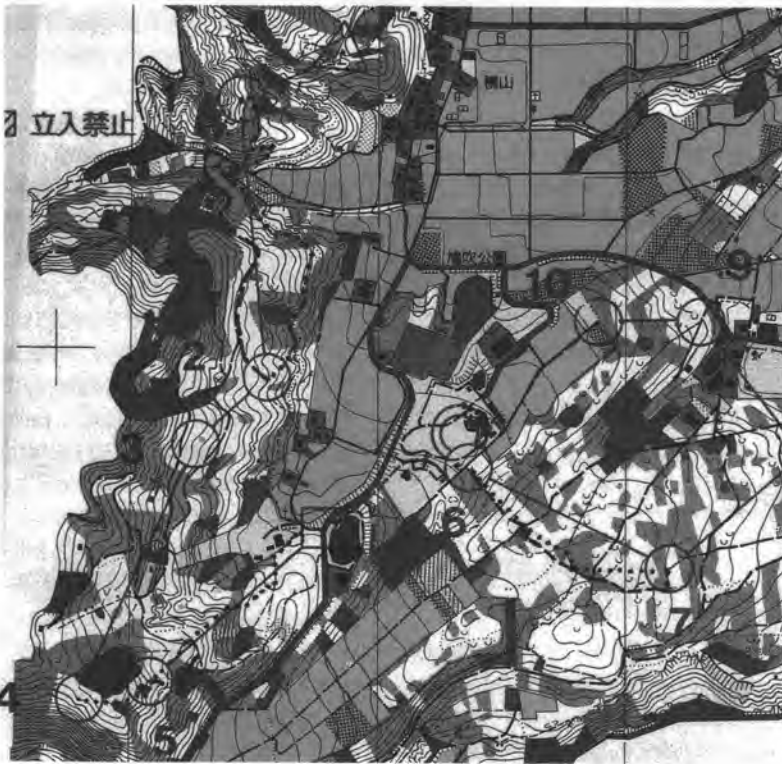
そして、片岡、志村、山口のバックは付かず離れずの状態を保ち、ゴールでは山口が前に出て29.05、山口を振り切ろうと意図的にルートを変えた志村は結局30.19で植田にも5秒届かなかった。また片岡は31.26だった。

残すはビジュアルを他の選手に1分半以上の差をつけて通過した酒井だが、山口がゴールしてから2分経っても姿が見えない。山口とのスタート差は3分。…すると最終コントロールからの長い直線に酒井。間に合わない。かくして酒井は④→⑤の直進で致命的なミスを犯し、山口に44秒遅れ、29.49でゴール。この瞬間、山口の優勝が決まった。



ゴール前の力走、山口選手

# 男子・女子決勝コースと上位選手のルート



①→② 入江・武田…… 南條---  
上の道を使い上からアタックするか、下の小径を使い下からアタックするのだが、試走した記者の印象としては走りやすい道で登りを消化できる南條ルートが有利。①から下るところで入江がS字の小径をショートカットしているのにも注目したい。

④→⑤→⑥ 入江…… 武田---  
入江はここでもショートカットしている。南條・武田は普通に尾根道ルート。武田は⑤の飛び出しで小径を捕らえられずにヤブに突っ込む。⑤ではアタック時に入江も手前のヤブでロス。

→→→→→  
パイプライン

⑥→⑦ 入江…… 武田---  
入江はルート上のパイプライン・道の曲りを重視し直線的にアタック。武田は⑦南側のみぞからのアタック。武田自身「プランニングが甘かった」と反省する。

縮尺 1 : 15,000  
等高線間隔 5m

S→① 山口…… 志村---

①へはコンタリングの小径ルート(山口・植田)、沢越え直進ルート(酒井・志村)があったようだが、大差ないようだ。志村はアタックでミスし山口に追いつかれる。

①→② 酒井・志村……

山口--- 植田---

男子の①→②レグと似ているがこれははっきり植田・志村の上の道回りが正解。植田の大回りはかなりのロス。このルートからも分かるように山口は独自のルートを通っており志村についたわけではない。

②→③ 山口ら3人…… 植田---

植田は道走りが好きようだ。

④→⑤ 酒井…… 志村---

女子のポイントとなったレグ。快走していた酒井だが、スピードの切り替えとプランニングに失敗したのか迷走にはいってしまう。一方、山口を振り切ろうと左よりのルートを取った志村だが、山口は→のように進み結局並走してしまう。山口自身、志村に完全につくという姿勢ではなかったが並走者の流れにそのような形だったらしく、ルートを正確に把握できていなかった。



## J O A 関連の最新情報

(註)日本オリエンテリング協会(通称J O A)は平成3年に設立されて以来、組織が不透明で、何かと悪評が絶えませんでした。最近になって、除々に内部改革が行われようという動きが見えます。

この7月、J O A内に「競技専門委員会」が設置されました。主な目的は、「日本オリエンテリング競技規則」を作成することで、それに付随して「公認大会の開催/運営基準」や「出場資格規定」なども検討されているようです。新規則は、早ければ今年度中に決定され、平成7年の春にも発効されるでしょう。

ここで注目したいのは、委員会のメンバーに現役のオリエンティアが参加しており、かつ理事会直属で事務局と独立して運営されているという点です。従来のJ O Aでは全く考えられなかったことであり、期待を抱かせてくれます。

私たちオリエンティアとしては、専門委員会の委員に直接言いたいことをぶつけることによって、議論に参加

することが出来るかもしれません。実際、委員の一人である広江氏は、「自分に直接意見/要望を寄せてもらえれば、必ず議案に載せるよう最大限努力する。」と意欲を示してくれました。

この機会をチャンスとして捉えてみては如何でしょうか。詳細な情報が入手できましたら、逐次レポートしたいと思います。

### J O A 競技専門委員会 構成メンバー

委員長	森田 輝雄 (J O A 理事)
副委員長	藤巻 孝之 (埼玉県協会副会長)
委員	近藤 泰幹 (千葉県協会理事)
	奈良 昌一 (東京都協会副理事長)
	橋 直隆 (学識経験者)
	広江 淳良 (日本学連理事)
アドバイザー	青木 弘 (J O A 理事)

## 決勝結果

### H E 決勝

1	入江 崇 (東北3)	29.01
2	南條 伸穂 (学習院4)	30.51
3	武田 光 (早稲田4)	31.35
4	安良 和寿 (筑波3)	32.12
5	森 泰祐 (山口2)	32.37
6	鈴木 卓弥 (東京4)	32.47
.....		
7	鈴木 尚志 (山口4)	33.23
8	野中 俊樹 (東京3)	33.28
9	高島 和宏 (東北4)	33.42
10	永田 芳樹 (東京3)	33.55



表彰式・男子入賞者  
左から、南條・入江・武田・安良・森・鈴木の各選手



表彰式・女子入賞者  
左から、酒井・山口・植田・志村・高木・片岡の各選手

### D E 決勝

1	山口 純子 (名古屋2)	29.05
2	酒井 佳子 (北海道4)	29.49
3	植田 佳子 (広島3)	30.14
4	志村 聡子 (早稲田3)	30.19
5	高木貴美江 (京都橋女子4)	31.01
6	片岡由紀子 (筑波2)	31.26
.....		
7	原 志保子 (静岡2)	31.33
8	稲村 仁美 (広島3)	33.00
9	山下 和子 (筑波3)	33.01
10	石川恵美子 (東北4)	34.44

□1993年9月12日

## 20周年記念 岡崎市OL大会

■愛知県岡崎市

リポーター: 小野 盛光 (三河OLC)

毎年、変化を持たせて参加者を楽しませている岡崎市のOL大会も今年は20周年を迎え、スコアOLが行なわれた。

近年はぐっと少なくなり、最後は何処でやったか思い出せないほどのスコアOLです。制限時間が120分ということで、スタミナの確認とアタック練習のつもりで参加した。しかし、今冬の東公園大会に引き続き不運なことにナイスレインの大会とガッチンコしてしまい、参加者がそちらの方へ流れてしまったのでやや寂しさを感じた。

大変良い天気でしたが、風通しのよいところに出るとスーッと涼しさを感じる気持ちのよいレースでした。ポストは30個。2点、3点、4点が各10個で計90点。制限時間の120分を1分越える毎に1点減点。

全ポストを取るつもりでスタートしたが、3つのポストで計13分程度ロスをしてしまい、結局7つ残した時点でゴールに向かわざるを得なくなり、ルート上の3つのポストを取ったものの4つを残し、4分オーバーで75点でゴール。一方最高得点の川口 匡氏は7分オーバーしたものの全ポストを取り、83点を獲得した。もう少しタイムオーバーしても全ポストを回った方が川口氏に近い得点が得られたと思われる。



□1993年9月26日

## 森林公園OL大会

■神戸市北区・市立森林公園

リポーター: 岡本 忠佳 (志摩S&amp;I村)

森林植物園は、山と海と坂のある人口147万人の港町・神戸市の北側、六甲山の中央に位置しています。三宮駅から市バスで約40分、絶好の天候に恵まれたので、明石海峡の対岸、淡路島が大変美しく眺められました。

日本では最大の面積(約120万平方メートル)をもつ樹林を見せる公園で、家族連れがたくさん入場していました。参加者は、AS 23名、B 14名、N 9名の合計46名で、世界各地の樹木の中を汗をかきながら走り回りました。

ポイントOLでしたが、ASについては後半の8から16がメモリーOLで、判りやすい道路ばかり走ったため、ずいぶんロスタイムを出してしまいました。

各クラスの優勝者は、HAS 岸和田OLAの横田 実、DAS 静岡OLCの鈴木夕起子、HB 大阪OLCの佐藤 馨、DB OLC/ハーの中田啓子、N 岸和田OLAの村橋ティ子のみなさんでした。

園内には、森林展示館があり、世界の巨木「ジャイアントセコイア」の大きさにはびっくりしました。

帰路、三宮駅前でアーバンリゾート・フェア KOBE '93が開催され、ジャズバンドの演奏に子供達が一番前列で聴き入っており、楽しい雰囲気を感じました。

(写真)



□1993年10月10日

## 第13回 山口大学工学部 大会

■山口県美東町

リポーター: 財間 定義 (鳥根OC)

《旧寺》体育の日、晴天。

《戸斤》JR山陽本線「小郡」駅前から、バスで約20分(秋芳洞へ向かう途中の「バス停・湯の口」下車、「真長田公民館」が会場)。

数年前、ここを会場に、大学関係のオリエン大会が開かれたようだ。今回、山工工学部OLC 作成O-MAP No.13「美東仏坂」として、ニューリメイク。

《人》本年度「中四九」連絡会のランキング対象大会第7戦。エントリーは「中四九」を主体に、123人+若干の当日参加。Bクラス以上の「トップ3」は

DA 6600m/280m

①植田 佳子 (広島大OLC) 1<sup>h</sup>31'52"②稲村 仁美 (広島大OLC) 1<sup>h</sup>32'10"③三明 晴美 (広島大OLC) 1<sup>h</sup>32'30"

DB 5900m/200m

①井沢 朋子 (山口大OLC) 2<sup>h</sup>10'57"②横山 由華 (広島大OLC) 2<sup>h</sup>22'04"③丸野恵美子 (山口大OLC) 2<sup>h</sup>27'55"

HA 6600m/280m

①木本 浩慈 (広島OLC) 1<sup>h</sup>14'06"②尾川 正洋 (広島大OLC) 1<sup>h</sup>18'57"③下江 貴博 (広島OLC) 1<sup>h</sup>20'48"

HB 5900m/200m

①土井 孝憲 (広島OLC) 1<sup>h</sup>29'49"②星井 嘉信 (オホ山口) 1<sup>h</sup>32'33"③弘中 進 (オホ山口) 1<sup>h</sup>36'30"

□1993年10月17日

## 第16回 筑波大学OL大会

■茨城県友部町

リポーター: 佐藤 征男 (水戸OLC)

私は、第2回筑波大OL大会から連続出場しておりましたが、昨年は仕事の都合でどうしても参加できませんでした。



# 全米選手権で高橋厚さん3位入賞

〔世界選手権シリーズ大会報告〕 浦和O L C 中野 喜美

今年は地元で開催される大会でもあり、早くから仕事の段取りを工夫して、当日はどうか参加することができました。

最近は大大会参加が少なくなっており、それだけレース感覚が鈍くなって、ややもするとO Lから離れてしまうのではないかと、自分自身のO Lに対する危機感にとらわれる昨今。本来の私の趣味である登山とか、家族4人が何かと関係している陸上競技(子供二人は大学陸上競技部O G)からの誘惑も多い。10月には、とうとう宮崎県で開催された世界ベテラン陸上競技選手権大会宮崎大会に参加してきました。競技や大会運営などO Lと比較してみました。

今やO L虫はさなぎから羽化し、成虫となって、あっち、こっちと飛び回ります。虫の世界の世界大会から成虫(ちょうちょう)の世界の世界大会へ、蝶は海を越え遠くへ飛ぶのは本能でしょうか。

当日の天気予報は、テレビからもラジオからも情報が入らなかったが、朝のうち雨が残る程度とか。家を出る前、誰かが言っていたが、雨は次第に強くなり、とうとう雨降りの大会となってしまった。

トレインに最も近くに家がありながら、会場への到着は、スタートまでの所要時間を考えるとギリギリ。アップしながらスタート位置へ。わずか2~3分待機してすぐスタート棒へ入る。クラスはいつものH50Aから今日はトレーニングを兼ねてH43Aと若くした。

ポスト①(307)は沢で簡単。②(318)はテラス、ポスト横20m位を通過して尾根に登ってしまう。おまけに雨で地図のポスト記号は318か313か良く読み取れない。尾根の上ですれ違った方が、数字の8が3に見えると注意してくれた。ポストの置かれたテラスは、テラスと説明のつくような地形に置いてほしいものだ。ミスしたから地形が読めなかったのか、位置がテラスの地形ではないのか、現地の再確認をしないとハッキリしない。マップを机上に置き、倍率2.3倍の拡大鏡で拡大してみたが、どうもハッキリ作図されていないようだ。ポスト③(324)は沢。④(339)は湧水点。④から⑤に向かう途中で道を走る。黄色のユニホームの男と前後するように、北西に延びる道を走るが、次第に小径のようになり、両側からカヤササが繁り走りずらい。先行者が立ち止まって逆戻りして

この10月、米国ニューヨーク州で行なわれた世界選手権大会に併設された2つの大会に延べ10人ほどの日本選手が出場しましたが、後半の全米選手権大会で、多摩O Lの高橋厚さんがGreen M60Aで21人中みごと3位入賞しました。1位スウェーデン、2位スイスに続き、昨年このクラス優勝のアメリカのAl Smithを4位に抑えての3位ですから会心の成績でしょう。前半3日間は激しい3位争いの末の5位でしたから尚更です。M50Aの小笠原揚太郎さん、F60Aの山本のり子さんも善戦しました。

O Fest 3日間は世界選手権と1日おきに併行して、全米選手権2日間は世界選手権の後続けて、同じトレインで行なわれましたので、地図は前もってオープンになっていました。みごとなほど自然が良く保たれたハリマン州立公園は、目の覚めるような美しい紅葉の真っ盛りでした。そのほぼ中央にあるウェルチ湖とセバゴ湖のほとりを主会場にして、連続した地域が1万分の1で2枚、1万5千分の1で2枚の地図に作られ、世界選手権が1日終るごとにそのコース地図が販

## ■Results-1993 K·Swiss US Championships

Green-Y M60A		Day1	Day2	Total
1. Per-Olof Bengtsson	60 SWE	47:14	62:12	109:26
2. Robert Huber	60 SUI	52:50	60:10	113:00
3. Atsushi Takahashi	62 JPN	56:43	62:17	119:00
4. Al Smith	62 USA	55:13	65:34	120:47

るではないか。こちらもち立ち止まって地図を読んでみる。道と小径が100mあまり平行しており、分岐はしていないではないか。コンパスのルーベを使って良く確認する。頭がぼけーとしていたのかなあ。今年も筑波大の大会で道走り、地図読みの失敗をやってしまった。大きくみると10分位はロスしているだろうか。ポスト⑤(352)は沢。⑥(367)は凹地、大きさは20m×20mに読めたが、現実には穴に近い状況。これも机上でルーベで確認すると2m×2mである。『・』が肉眼では読めなかった。⑥~⑦間の道、小径を慎重につないでポスト⑦(363)は北の植生界の分岐点。なにかハッキリしないところであった。植生界の分岐? ポスト⑧(359)は2mの崖、北の根元。走りながらの確認であるが、ちょっと無

売されるので、次の日のゴールはわかるし、スタートも推定できるし、コースを予想する楽しみがありました。トレインは針葉樹が少なく、オークやメープルなど広葉樹が圧倒的に多くて、巨大な露岩・大岩・ごろごろした岩石・岩がけなど氷蝕地帯に特徴的なもので、走ると足がガタガタになります。直進し易いところも多いのですが、小道・小径が少なく、似た地形が多いので、現在地を見失うこともあります。世界選手権の上位者のルート地図を見ますと、直進だけでなく、走り易いルートを上手に選んでいるのがわかります。日本とは様子を異にする森の中の湿地は、雨が降らなければ平坦で走り易いようです。

州立公園は最小限必要な設備(道路・駐車場・トイレなどは完備)以外は商業的な施設は一切なく、パーク・ポリスのバトカーが随所で眼を光らせていました。ここへ来るには車が必要で、バス路線すらないのです。自然保護とレジャー・観光のあり方をいろいろ考えさせられました。大会の表彰式で地図作成者や運営の各担当者やクラブが紹介されるのもさわやかでした。

理やり置いた感じがした。⑨(kkk)は道路の分岐。ゴールまで450mが長く感じられた。

今年はポスト②のアタックおよび④~⑤間の地図読みの失敗によりタイムが悪い。集中力が無かった。早々と帰宅して洗濯、休養。明日からの九州出張に備える。地図上の距離8,200m。走った距離は、キルビメーターで地図から測定したら9,200mであった。また、出入りのポストが多くあったように感じた。



# 各地の新聞から

＝いずれも長野県OL協会・元木 悟氏提供＝



10月27日(水)「毎日新聞」地方版より  
(記事は柴沼 均記者＝オリエンティアによるもの)

## がの 長野 ながの

伊那市で開かれたオリエンテーリング大会



「日本学生オリエンテーリング」

### 初のショート大会に 全国から400人が参加

さわやかな秋空の下、第  
一回日本学生ショートオリ  
エンテーリング選手権(日  
本学生オリエンテーリング  
連盟)が、伊那市の  
鳩吹公園を会場に開かれ  
た。

オリエンテーリング(O  
J)は方位磁針と地図だけ  
を持って山林の指定れた  
ポイント回るスポーツ。  
日本ではレクリエーション  
的要素が強いが、北欧を中  
心に欧米では立派な競技。  
同連盟は毎年春に十五、ほ  
どのクラシカルトリレーの  
選手権を行っているが、世  
界的にも増えてきたショー

トコース(約五キロ)の大会  
を今回初めて開いた。  
大会には全国から予選を  
勝ち抜いた約四百人が参  
加、日ごろの健脚を競い合  
った。午前中の予選結果に  
応じて、決勝に進む方式。  
第一回の選手権とあって、  
参加者は入念な調整し

スに臨んだ。京都市から来  
た京都橘女子大学の白井由  
美(一三)は「大会に備  
えて練習をしてきた成果も  
あり、好成绩を取られたま  
した」と満足そうだった。  
約五キロの決勝レースでは  
男子は入江選手(東北大  
三年)、女子は山口純子選  
手(名古屋大二年)が優勝。  
入江選手は「短い距離の方  
がミスが出来ないため集中  
力が必要。世界選手権にも  
このような大会も必要だ、こ  
うして大会の感想を語った。  
木村佳司大会実行委員長  
は「四年間という限られた  
学生時代、より多くの機  
会を与えられれば」と話し  
ていた。



カラ松林の中をスタートする参  
加者＝高遠町の晴ヶ峰高原で

### 自然の山中で330人がいい汗

高遠で県オリエンテーリング大会

県オリエンテーリング協  
会主催の第十四回オリエン  
テーリング大会が三日、高  
遠町晴ヶ峰高原の国立信州  
人やワールドカップに出場  
スでタイムを競い合った。

標高二三〇〇呎の高原の  
中に設けられたコースの  
スタート地点では、参加者  
たちが色とりどりのウェア  
に身を包み、コンパスとチ  
ェックカード、地図を手に  
一分おきスタートし、自  
然がいっぱいの山中を駆け  
巡った。  
各科目の優勝者は次のみな  
さん  
男子▽▽9・1、菅原  
琢(多摩)▽6・3、加藤  
頌裕(新潟大)▽5・1、  
D・スミス(オーストラリ  
ア)▽4・7、ウツシロ  
ラ(東京)▽4・5、近藤  
正樹(金沢大)▽4・1。  
増井和成(群馬県立)  
女子▽4・8、鈴木  
夕紀子(静岡)▽4・8、  
藤下栄子(新潟大)▽4・7  
、三好美子(同)▽3・8  
、石田美代子(愛知)▽4

10月4日(月)「中日新聞」より



10月7日(木)「長野日報」より

### 330人が健脚競う

県オリエンテーリング  
大会が少年自然の家で

第十四回県オリエンテー  
リング大会(県オリエンテ  
ーリング協会主催)は二  
三日の両日、高遠町の「国立  
信州高遠少年自然の家」周  
辺で開き、参加者は自然の  
中で健脚を競った。  
競技の普及を図り、参加  
者高士の親ほくを深めるこ  
となどを狙いに毎年開いて  
いる。今回はワールドカッ



ブ日本代表ら五人の招待選  
手をきみ、県内外の十歳代  
の小学生から六十歳までの  
三、四百人ほどが参加し  
た。  
初日の受け付け、交流会  
に続き三日は競技を実施し  
た。参加者のレベルに応じ  
て、距離や標高差、ポイント  
発見の難しさなどの難易  
度の違うコースを設定。選  
たは快感がいいですね」と  
競技の魅力を話していた。





## ハイテクOL一步前進

中京OC 小澤 保昭

「ハイテクOLは可能か」の拙稿が'93/5のO-JAPANに掲載されました。皆さんに読んで貰えるのだろうか、関心の程はと想っていたら、手にしたその夜、つまみOLの新帯 亮さんから電話があり「ソフトに困ってみえると思うので使えるかどうか、一度装置説明を詳しく聞きたい」と願ってもない嬉しい言葉に、早速セイノー情報サービスを一緒に訪問したのは言うまでもありません。聞けばインカレ運営に苦労したベテランで、以前から注目していたとのことです。

以来、新帯さんは会社から帰ってはプログラム作成のハードな日を送ることになってしまいました。何回かテストを重ね、そして'93/8のO-JAPAN「東海地区連絡協報告」で小野さんが既報の通り、東海地区連絡協の皆さんの深いご理解を得て、いよいよ8月28・29日に行われる駒ヶ根高原/千人塚の夏合宿で実地試験ということになりました。

初日の試行を済ませた、翌29日のこと千人塚では競技責任者を元木 悟さんにお願いしていましたが、そこでの対話。

元木「スタート終わったら、僕タイム取ります。プリンター付きの時計ありますか」

昨日の様子を見た連絡協の土屋会長さん、ミスは起こらないと判断されたのか土屋「いいわ、これでやるから」

元木「エッ何ですか、これ」

お二人が30分程かかる離れたスタート地点から戻った時には、既にBクラス3人はゴール。留守番が時計もせず一人でチェックカードを回収しているだけで、プリンターに印字された速報用紙が溜っていました。

やがて戻った元木さんは順不同に随時回収されたチェックカードのペナチェックのみを悠々と行なうことになりました。ゴール作業がチェックカード回収・ペナチェック・速報掲示のみとなったことに驚きの声を上げて居られました。



写真は8月28日の電源を自動車バッテリーから取って運用の状況

左下 自動車のボンネットを開いたところ

その上 土管に乗せてあるのがアンテナ、右にある角型のものは読取器  
右板壁の前にパソコン

緊張し、休む間も無い面倒な計時・ゴール順管理・時間計算・速報転記から解放されたわけです。

アームバンドに縫い込んだトランスポンダーの手首への装着は抵抗感が無いと、競技者に好評を得ました。

NEC9800 1台使用のソフトは…競技情報自動収集システム（ゴール時刻処理速報）…スタート時刻指定でのゴール作業として使用可能となりました。

先ずは成功と安堵しました。推進役として最も嬉しかったのは、夏合宿で体験された三河オリエンテーリングクラブの方から10月10日の大会に貸して貰えるだろうかと申し込まれたことです。早速手続きいたしました。この運用で問題なければプログラムの信頼も得られることとなります。

新帯さんはパソコン並列使用、ノート型、リードライト型トランスポンダー用、リレー用などプログラムのステップアップを計画していますのでテストの機会を下さるようお願いいたします。

セイノー情報サービス側では、プログラム完成までのモニター期間は一式10万円位から貸し出してもよいとのことです。

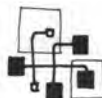
その他、競技者の動き、運営状況の判る新帯さん苦心の編集になるVIDEO (VHS)も用意いたしました。実費 ¥2,000 円

以上、貸出し、VIDEO (VHS)ご希望の方は斡旋いたしますのでご照会願います。

〒461 名古屋市東区砂田橋二丁目一番  
C-1112

小澤 保昭

TEL/FAX 052-722-0826





# With You

関東高連広報部 木俣 知大

## ——関東高連に入りませんか？——

### 関東高連について

1987年に発足した連盟で、関東周辺の高校生オリエンティアによって運営されています。現在11校が加盟しており、また1名の個人加盟者がいます。高校生によるオリエンティング活動のみならず、保護者などサポートしていくのが主な仕事です。

### 具体的な内容について

関東高連に活動は総会・理事会によって話し合われ、その決議によって決定されます。

#### 1) 理事会とは？

→年度の初めに選出された関東高連の事務機関を担う理事校からなる会議で、総会の議題調整を行います。また、前年度のインターハイの時の総会で決められた主要機関の決定がなされます。

#### (2) 総会とは？

→全加盟校・加盟者の最高決定機関で、活動方針及びその内容を審議・決定するものです。

#### (3) 定例会とは？

→関東高連の合同練習会で、年に6回ほど行われます。技術向上・加盟員の交流・運営方法などの今後の様々なオリエンティング活動に役立てています。また、一般の方々にも参加を呼びかけています。

#### (4) Jr. SQUAD 合宿とは？

→関東高連・SQUAD共催の「トップランナーによる高校生(中学生)のための合宿」であり、年に2回、夏と冬に行われます。今年の夏は、8月27日～29日に山梨県大泉村で行われました。

#### (5) 高連競技会とは？

→関東高連を一般にアピールするために、3年前(草花丘陵:東京都青梅市)と2年前(五日市広徳寺:東京都五日市町など)に行われた関東高連主催の大会です。今年は開催されそうにありません。

#### (6) インターハイ

→高校生オリエンティング選手権大会で、毎年3月に、関東・関西高連のOB・OGによって開かれています。また、これに伴い、「新人戦」・「セレクション」が行われる場合もあります。

#### (7) 広報紙について

→月刊で『どうしましょ』が発行されています。大会の案内・予定表・成績表の他に、全加盟校・加盟者の原稿が載せられています。

### ◎1992年度の定例会は以下のように行われました◎

- 第1回(5/17) 麻布学園主催 霞丘陵(東京都青梅市)  
 第2回(9/15) 桐朋学園主催 さやまみね(東京都瑞穂町<sub>ex</sub>)  
 第3回(1/24) 国分寺高校主催 加治丘陵Part III(埼玉県入間市<sub>ex</sub>)  
 第4回(2/7) 桐朋学園主催 ニッ塚峠(東京都青梅市<sub>ex</sub>)  
 第5回(2/14) 麻布学園主催 天覧山(埼玉県飯能市<sub>ex</sub>)

### ◎1993年度の定例会は以下のように行われました◎

- 第1回(5/9) 川和高校主催 加治丘陵Part III(埼玉県入間市<sub>ex</sub>)  
 第2回(6/9) 桐朋学園主催 草花丘陵(東京都青梅市<sub>ex</sub>)

### ◎1993年度の定例会は以下のように予定されています◎

- 第4回(11/23) 桐朋学園主催 赤根が峠(埼玉県飯能市<sub>ex</sub>)  
 セレクション(12/23) 関東OS会主催  
 新人戦(1/16) 高校2年生主催 第4回定例会の要綱が出来ています。木俣までご請求下さい。  
 第5回(1/??) 国分寺高校主催  
 第6回(2/??) 麻布学園主催 その他に関しては開催1カ月前頃にご請求下さい。  
 第7回(2/??) 桐朋学園主催

### ◎最後にお願い

関東高連の活動は、だいたいわかって頂けたと思いますが、ここで高連からのお願いがあります。それは極端に言うと、「関東高連に加盟して下さい」という事です。関東高連は今年で7年目を迎え、ますます発展しようとしています。しかし、高校生オリエンティアの絶対数が少ない上に、年々減少しつつある為に、活動にも限りがあります。裏返して言えば、高校生オリエンティアの横のつながりなくては高校生の本格的な活動は難しくなってくるという事だと思います。そこで、あなたの協力が必要なのです。私連と共にオリエンティングを楽しんでいきませんか？

このパンフレットを読んで高連に興味・疑問を感じた方は、どこの方でも結構ですので、以下のものには是非御連絡下さい。待ってます！

連絡先 関東高連広報部  
 〒182 東京都調布市深大寺東町4-19-12  
 木俣 知大(キナトキ) ☎(0424)86-4676

# “走”の世界へ…

横浜OLクラブ 清水 潔

☆

皆さんはオリエンテーリングの他に何かスポーツをしていますか。オリエンテーリングだけをやっている、最近マンネリ化しているって事ないですか。同じ事ばかりをやっていると、本人が意識しなくても、だんだんやりかたが固まってきたりして、つまらなくなってしまうことがあります。面白いと思うものを、いつまでも面白くやるにはどうしたら良いでしょう。それには、異質なものをやるのが簡単な方法です。では具体的に何をやるか、ランニングはそのひとつの回答です。

ランニングといってもいろいろあります。トラックを走るのもランニング、けれどいきなりやるにはちょっと敷居が高いですね。ところで、オリエンテーリングのレース中に、遠くの山がくっきり見えたり、きれいな花やおもしろい草があったりして、そこでゆっくりしたいと思った事ありませんか。そう思った事があるなら「マラニック」をやってみよう。

「マラニック」とは、初めて聞く人も多いと思います。これはマラソンとピクニックを合わせた造語です。いま、ランナーもただ舗装された道を走るだけの世界から一歩足を踏みだしています。別に山でなくても構わないのですが、非日常的なほうが面白いので山が多く利用されます。休日になると、関東では高尾山、奥多摩そして丹沢あたりの山々は、ランニングウェアにデイバックやウエストバックをつけただけの軽装のランナーたちがたくさん走っています。

別に走り続けなくたって構いません。きついところでは歩けばよいし、気に入ったところではゆったり休んで遠くの山を眺めたり、植物や動物を観察したりして楽しむのが良いのです。仲間との会話も良いですね。とにかく、頑張り過ぎないで、余裕を持って、またやりたいたいと思えるようにやるのが大事です。そうすればいつの間にか走力がつきます。

私はこの9月に、「きのことりマラニック」というのを、自然体験塾(注)でやってきました。面白いもので、最初はまるで見つからないきのこが、だんだん見る目ができてくるというか、今までは見のがしたはずのきのこが見えるようになってきます。

さあ、今度はあなたがやってみませんか？必要なものは、地図とデイバック。あとは場所次第で、雨具、防寒具、懐中電灯も用意します。温泉なども調べておくことより楽しめます。

はじめは、関東でしたら高尾山あたりが適当です。よく利用されるのは京王高尾山口-高尾山-城山-小仏峠-景信山-明王峠-陣馬山を往復する25kmのコースで、良く整備されていて走りやすくなっています。もちろん、陣馬山より手前で折り返せば距離は短くなりますしバリエーションはあなた次第です。駅のコインロッカーに荷物をおく事もできますし、登山口まで行くのに時間がかからないのが便利です。

☆

この10月9日から10日にかけて、第1回日本山岳耐久レースが奥多摩を舞台に行われ、71kmのレースに参加しました。詳しい報告は、またあると思いますので、ここではコースについてひとこと。71kmコースは五日市一日の山 御岳山 大岳山 御前山 三頭山 西原峠 土俵岳 生藤山 醍醐丸 市道山分岐を通過してふたたび五日市に戻るといふものでした。このコース前半はけっこう道幅が広く、木に覆われているところが多く、マラニックをするには快適そうです。コースの後半はヘッドランプをつけながらだったので、あまり周りが見えていませんでしたが、途中休んで、見上げると星が空一面に輝いていてしばらくレースを忘れてぼおっと眺めていました。昼のマラニックでは味わえないものでした。

☆

## 〔大会案内〕

第6回 秋川渓谷自然入会レース  
1994年4月17日(日)

ちょっと、先になります面白いので紹介しておきます。この大会はなんといってもユニークです。河原がスタート地点になっていて、スタートすると、すぐに川を横断し、以後も河原を走ると川を横断するのが交互につき、往復で10kmとなるものです。川には深みもあるし、水量が多いところもあるので、危ないところには大会役員が流されないように立っています。貸し出されたヘルメットの着用が義務づけられています。

☆

(注)

自然体験塾とは市民ランナーの指導者として人気のある群馬大の山西教授が主宰するもので、「多くの人々の個性、そして厳しい自然との出会いによって人間的自由を拡大すること」を趣意として、設立され、鳥取砂丘の一角に合宿所を持っている。例会には全国から会員が集まり、砂丘走、カヌー、畑仕事などをやったり、講演会などの地域に密着したイベントも行っている。

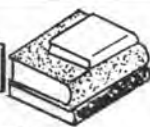
☆



著者自己紹介  
清水潔(41歳)

H21A、横浜OLクラブおよびソニーOLCに所属。OL歴14年、走歴10年。OLのトレーニングとしてランニングを始め、わりあい簡単にフルマラソンで3時間を切れたので別大マラソンを目指したが果たせず、今は全日本OL大会でのH21Eクラス出場を目指している。自然体験塾の会員でもある。

# オリエンティアのための本棚



第4回：ジャspbason：文・エッカート：絵（河合雅雄訳）  
「森はだれがつくったのだろう？」 童話屋（1339円）

文：村越 真／カット：早川喜代美

針葉樹の森をみて「きれい！」と思わず口に出るようになったとしたら、あなたはもう立派なタク・オリエンティアである。一般人が「きれいな！」というのは白樺や紅葉の森、つまり藪だらけの山なのだ。

ところでこの森はどのようにして出来たのだろうか？人が手を加えないで放っておくと、森は緯度や気候に応じた極相（クライマックス）と呼ばれる植生状態になることが知られている。日本では多くの場合広葉樹林になる。この本の舞台となったマサチューセッツではブナとサトウカエデの林になる。200年前には草原であった場所に雑草が生え、しだいにノゴボウやノイバラの草むらとなる。この草むらに日当たりのよい場所で育ちやすいアメリカシロマツが育って森が形成されていく。それによって森は暗くなるので、雑草は枯れていくが、それと同時にアメリカシロマツの苗も育たなくなる。最初の世代のマツが枯れていくと、その下の日蔭で育ったトネリコやカシワなどがマツにとって代わる。そして彼らよりもっと日蔭が好きなサトウカエデやブナが最終バッテリーとして育ち、森は極相に入る。森に生える植物は特定の環境の中に育つとともに、特定の環境を作り上げる。だから極相への遷移はある程度決まった道筋になるのだ。その意味では、「森はだれがつくったのだろう？」に対する答は、「森自身」なのである。原題のHow the forest grewはそれを端的に表している。

植物が変わるとともに、棲みつく動物の種類も変わっていく。草原にはノネズミのような小動物が、そして極相では、シカやクマなどの大きな動物をはじめとする多種多様な動物たちが生息するようになる。

では、私たちにとって「きれいな」針葉樹の森、富士山麓や日光に代表される杉や檜の林も自然の遷移によるものなのだろうか。答は否である。植林をする、苗木の時期には除草をする。これが約10年ほど続く。その後樹齢40年くらいになるまで、およそ5年おきに間伐をする。もっとも間伐や枝打ちの行き届いた林では、落枝や間伐材が走行の妨げになる。木がある程度育ったあとは、むしろ維持のされていない林の方が林内に光が入らないために可能性は良くなるという。だがいいことばかりではない。下生えのない林では表

土が流れやすくなるので、富士山麓に見られるような流水による深い溝ができやすくなる。

ちなみに終戦直後までは富士山麓は桑畑であって、現在のように植林になったのはその後である。40年たってようやく用材として市場に出せるようになるのだから気の長い話である。富士のテラインの中にある貯水槽や小さな石積みは、桑畑の時代の名残である。最近大会にはあまり利用されなくなった東京西郊のいわゆる武蔵野の雑木林も、薪炭林として周辺の農家が手入れをし、初めて可能性のよい林が維持されているのだ。

だから私たちがオリエンテーリングをできるのも、林業農家のおかげである。林の中で20年くらい樹齢の木にはしごをかけて一人枝打ちをしている農家の人をみかけることがある。挨拶の一言も交わしておきたいものである。

人の手が入ろうが、自然のままにまかせようが森は変わってゆくのである。近年東京近郊の山の可能性もずいぶんと落ちている。十分に手入れされていた里山に人手が入らなくなったからである。「ちえっ、七国もずいぶんと可能性が落ちたものだけ」と僕らは何気なく言うが、これが自然の姿なのである。どうです？藪に対して親しみを感じるようになりましたか？

（なお、原稿の執筆にあたっては富士農林事務所の本徳子さんにお話を伺いました）



# パーマネントコース

りぽ〜と



□1993年8月12日(木)

9月15・16日(祝・金)

山梨県 No.30 ~窪93-5~

「清里」

[距離] 10km

[ポスト数] 10本 O-MAP

\*既報:0-J 91/9 (大高),

92/11(富田), 93/5(窪田)

◇マップ取扱所/駅正面にあるホテル・カラムの土産物店。

◇マスター・マップ/ホテル・カラムの向い側。レンタカーの案内所ができて、宿泊施設案内板とマスターマップ揭示板は前の位置より数メートル移動されており、OL揭示板はよく見えるようになっていた。前回訪れた4月6日以降、マスターマップは交換されていたが、8月12日の時点で既にかなり褪色して赤色の痕跡が全く消滅して、ポスト位置の判読は不能であった。この揭示板はかなり日当たりがよいため、現在使用されているインクでは褪色が早く、夏場はせいぜい3か月、冬場は4か月位しかもたないと思われる。したがってマスターマップ交換基準は3か月が目安となりそう。ポスト位置説明は赤インクで書かれていたが、これは明瞭であったので、このインクの方が耐候性が良好である。可能ならばポスト位置の記入にこのインクを使用されては如何でしょうか。

◇その他の情報

- 1・ポスト①への進入点は夏草が繁っていて全く不明。歩測を正確にして進入すると林の中に踏み跡道が見つかる。
- 2・林を過ぎて広い道路の左側をしぼらく行くと高冷地実験農場があり、牛が放牧されている。それを過ぎるとビジターセンターへの十字路に出る。この辺りから道路の右に移ってポスト②への準備をする。②の付近は草が刈り込んであった。
- 3・天気が良ければ②へは清泉寮へ向かう広い通りを行くよりも、林を抜けたら広い道路の右側に移り、道標に従っ

て「草原の道」に入り(この道はマップには無い)、眼前に八ヶ岳を仰ぎながら広々とした草原を通過してビジターセンターに至り、ここで名物のソフトクリームを求めるとよい。シーズン中、清泉寮の売り場には長蛇の列ができるので、そこで買うと時間のロスが大きい。センターの南西側の小さな沢を渡り、右手にある清泉寮への近道を示す小さな道標に従って林の中を進むと(この道もマップに無い)旧ポストのところに出るので、②はここから右折してすぐ近くに見つけられる。センターからは飯盛山から富士山までと赤岳を主峰とする八ヶ岳の主要なピークが眺められるが、残念ながら南アルプスの展望がきかない。それを早く見たいときはセンターから南西に進んで太い道に出て、清泉寮に向かってその左側を進むと富士山から南アルプスまでの展望が開ける。

- 4・清泉寮の少し東にネイチャーセンターがある。名前から想像したより貧弱であったが、興味のある人は寄ってみるとよい。テラスには望遠鏡が2基設置されていて、付近の森の中の観察ができる。
- 5・ポスト⑥の付近にはマップに無い小道がある。⑤から道なりに進むと沢の音が近くなり、道はやがて沢から離れて北西方向に上りはじめる。その手前に右(北東)に分岐する道がある。この道を通って沢を渡ると上の林道に出るが、ポストは見つからない。マップにある道はこの分岐の少し手前で分岐している筈だが、夏草が繁っていて分からなかった。結局、逆にたどって沢の右岸に⑥を見つけた。(富田氏も同じようにされた由、即ちこの道が最も道なりに見える)
- 6・時間的に余裕があれば、ポスト⑦から道標に従って羽衣池まで上ってみるとよい。小さな湿原ではあるが、シーズンに応じて湿原の花が見られる。ここは赤岳へ登る真教寺尾根コースの入

り口でもある。また、町営たかね荘の東北東にはSL公園があって、且つて小海線を走っていた高原のポニーC56が保存されている。しかし、管理が悪く公園とは名ばかりの状態で、夏草が繁り放題でSLも風雨に曝されて荒れ果てているのでマニア以外にはつまらないかも。

- 7・ポスト⑧は有名な美しの森にある。ここには記念撮影用に山岳美術館という額縁を模した枠が設けてあって、ここで八ヶ岳や富士山をバックに記念撮影できるようになっている。横には展望できる山々の説明が図示されているので参考になる。天候に恵まれれば思い出の写真が撮れる筈。
- 8・美しの森を南に下ると富士屋ホテルの横にでる。その前庭に「からまつ湖」という小さな池があるが、時間があると寄ってみるとよい。池の周りは散歩道になっており、また、沢山の鯉が目を楽しませてくれる。池を前景にした八ヶ岳や、樹木の上ののぞいている南アルプスの眺めもまずまずである。
- 9・ポスト⑨および⑩はサイクリングロードを通るよりも、いわゆるコスモス街道を下り、あたりをつけてポストにアタックする方が面白いのでは。富田氏の既報にもそのように記述されている。
- 10・サイクリングロードの終点の左手には北沢美術館がある。アール・ヌーヴォーのガラス工芸品の展示で有名である。また、「清里の森」の中にも清里の森美術館がある。

\*\*\*

このコースはやはり天気の良い日が多い。8月12日は台風一過の翌日でこの夏にしては珍しい快晴に恵まれ、9月16日もそれに次ぐ晴天であったので、素晴らしい眺望を楽しむことができた。適当に変化があり、家族連れにもなかなかよいコースである。但し、積雪期にはそれなりの準備が必要。ポスト⑥付近は雪があると分かりにくい地形のため、無理をしないで引き返すことも。

リポーター:

〒191 日野市多摩平5-2-43

窪田 宏明



□1993年9月11日(土)

埼玉県 No.16 ~木93-3~

新「竹沢」

【距離】 8 km

【ポスト数】 11本 O-MAP

東武東上線「東武竹沢」駅下車。急行は停車しないので、池袋・川越方面から行った場合は、必ず「小川町」駅で乗り換えること。マスターマップは駅前の電話ボックス横にあり実に鮮明。マスターマップの中にMAP販売店(利根川商店)が明記してある。「東武竹沢」駅から左へ70mほど行くと、踏切の近くに利根川商店(月曜日は休み)がある。

MAPは1:15,000のO-MAPで、調査は1992年。

コースは山50%、畑30%、舗装道路10%、林10%で、標高差は約200m。①→②は相当きつい登りである。コースはよく整備されているが、③→④はMAP上の点線の小道がすでに消滅している所があるので注意。

ポストの前半は山の上下で終り、後半は田園の中を歩く。特に難解ポストはない。本年1月31日に新PC開設記念大会が開催され私も走った。ご存知のように旧コースは相当北上して縦長であったが、新コースは横長になっている。本誌で1991年頃、窪田氏が旧コースについてレポートをした後で、「少年自然の家の方へコースを変更してはどうか」と提案しておられたが、そのとおり新コースは「少年自然の家」を通ることになった。

ポスト位置は旧⑧が新①になっているが、他は全て変更されている。

(利根川商店 ☎0493-72-5831)

□1993年9月29日(水)

新潟県 全国No.729 ~木93-4~

「十日町下条(牝よう)」

【距離】 10 km

【ポスト数】 10本 O-MAP

JR飯山線「下条」駅下車。飯山線は一日に10本なので、時刻表をしっかりと調べておくこと。

十日町は新潟県でも雪深いところのひとつと聞いていたので、さぞかし木曾谷のような山間かと想像していたが、駅こそ無人駅ながら国道の両側には隙間なく

人家や店が立ち並び、近くに信濃川も流れて予想よりはるかに広々とした田園地帯であった。

駅を出て直進60mで国道にぶつかるので、右折して30mほど行くと左側に「下条地区公民館」がある。

MAPはこの公民館にあり、親切に対応してくれる。マスターマップは公民館前の掲示板にもあり鮮明。「下条地区公民館」は月曜日と祝日は休館となる。但し月曜日は誰かいることもあるので、前もって電話してほしいとのこと。MAPは1987年調査、1:15,000のO-MAPで精度は99%に近い。

コースは山45%、田園45%、舗装道路10%で、高低差は80mぐらいだが、波乗りのように何回も上下するので少し疲れる。道はよく整備されている。③の直前50mは雑草が茂り小道が見難いが、この程度ならば舗装道路を歩くよりPCの興味がわく。

ポストは手入れが行き届き記号は鮮明。このコースのポストは冬季は撤収して保管する。したがって、11月下旬頃から4月頃まではポストは立っていないので、その頃は必ず「下条地区公民館」に電話をしてから行くこと。

このコースは公民館活動でも活用しているらしく、至る所に石油缶で作った別口のポストが立っている。

(下条地区公民館 ☎0257-55-2004)

リポーター:

〒185 国分寺市泉町3-5-6-104

木佐木 輝雄

□1993年9月27日(月)

京都府 No.10 ~室93-2~

「東舞鶴 四面山」

【距離】 10 km

【ポスト数】 10本

■スタート地点/駅前スタート: JR舞鶴線「東舞鶴」駅前広場南西側。体育館前スタート: JR舞鶴線「東舞鶴」駅より北西に徒歩15分、舞鶴市役所北東側「舞鶴市体育館」前、付近に駐車場あり  
■地図取扱所/「東舞鶴」駅前40mの西村商店または市立体育館

このコースは駅前スタートと、その逆に回る体育館前スタートのどちらかを選ぶことができる。

走ってみるまでは一般的なバーマネットコースを想像していたのだが、いざ走ってみてかなり難度の高い面白いコースだと感じられた。

スタート後、ポスト①②③までと、④から⑩まで、そしてゴールの体育館前までを除けばほとんど森の中を行く本格的なルートを採用している。それだけに公園やフラットなグレンデで楽しんでいる方には多少ハードに感じられるのではと思われた。

駅前からスタート。駅から南西に線路に沿って行き初めての踏切を渡る。マスターマップのポスト位置説明には、①小さい広場 北のふちとある。広場という文字に惑わされないように? (惑わされたのは誰?) ②は東側(学校の西側)からコンパスを使って攻めれば容易に見つかる。位置説明は②あん部。③は広場 南東のふち。②から南西に道に出てグラウンドを確認できればOK。グラウンドを廻って階段を登れば小さな広場。記念碑が建っていてポストはその横に建っていたと思われたが、現物はその記念碑を枕に昼寝をしていた。これは点検整備の要あり。建っていた場所を探したがそれらしき痕跡は発見できずに④に向かう。説明では小道と小径の分岐。ここから本格的な雰囲気になる。田んぼに沿った道を西に向かい、その田んぼが終る手前を北に入って約200mに④はあった。⑤は小道の曲がりだが、実際は送電線の鉄塔南角の下にあった。⑥は頂上(三角点)。⑤から真北に向かって道路に出て、道路と踏切を渡り崖際の道路を50m程北東に行くと「日本山妙法寺舞鶴道場」の看板があり、その小道を入り尾根まで真っ直ぐ登ると三角点(三等)に出る。⑥はその横に建っているが、かなり落書きをされた模様で、色を塗り直してあった。この小道は前述の寺に行く参道になっていたのか相当数の石仏が道端にまつられている。⑥から道路を横切ってお寺の裏を登り⑦へ。⑦はあん部(小道の交点)。林の中で直射日光を受けないためか、このコースの中で一番良い状態のポストだった。⑧は⑦と同様あん部(小道の交点)。⑨は小径の分岐(尾根の分岐)とあるが、ここで私見を言わせていただけるなら小径の分岐(尾根の肩)とする方がベストのように思えるのだが…

京都府OLパーマナント・コース

# 東舞鶴 四面山 10

JOLC登録コース：No.609

## ●スタート地点までの交通機関

国鉄舞鶴線「東舞鶴」駅下車、北西に徒歩約15分。  
舞鶴市役所東側「舞鶴市体育館」前がスタート地点。なお、近くに駐車場もある。

## ●地図取扱所

舞鶴市教育委員会体育課 ☎0773-62-2300代表  
〒625 舞鶴市宇北吸1054番地

⑩へは国道を越えねばならない。ただ、ポストは見つけやすい特徴のある場所だから簡単である。

そしてゴールの体育館前へ…。ここに逆回りのマスターマップが置かれている。

最初にも書いたが、かなり難度の高いAクラスの方にも一度「お薦め」の面白いコースである。

リポーター：

〒569 大阪府高槻市大畑町3-5

室井 孝介



1. 小さい広場 北のふち
2. あん部
3. 広場 南東のふち
4. 小道と小径の分岐
5. 小道の曲がり  
〔註〕(鉄塔の下)
6. 頂上(三角点)
7. あん部(小道の交点)
8. あん部(小道の交点)
9. 小径の分岐(尾根の分岐)  
〔註〕(尾根の肩)
10. 崖 西のふち  
(道の曲がり)





## 購読料金等改定のお知らせ

巻頭でも述べさせていただきましたが、この10月10日をもちまして、小誌は創刊10周年を迎えることができました。偏にみなさまのお蔭と存じ、重ねて感謝申し上げます。

さて、この間55号までは(A5判16頁平均、カッター本誌内で)年間2,000円、そして56号以降は(B5判16頁平均、カッター/最近は大会成績を別刷りで)年間3,000円でご購読をお願いして参りました。発行については、当初は当時のJOLC=日本OL委員会名で行なっておりましたが(実際の編集発送は現行通り当方で行なう)、ずさんな経理事務の結果、赤字が嵩み、1987年5月以降は私どもが個人事業として発行全般をお引き受けしてきました。以来、移行当初から引き継いだ赤字予算が影響して、毎年10月頃になるとその年度分の予算を使い果たし、年末までは個人的な借入金、1月からはみなさまからいただく次年度の継続購読料を先食いして、何とか発行を続けることができてきました。

このような状態ですから、いつもご寄稿いただくみなさま、特に定期的に版下のかたちにまでしてご協力くださる岩出・桐田・村越・長谷川の諸氏はじめ多くの方々、忘れてならないのはリザルト・フロッピーやランキング計算、そして何よりも購読者登録の事務や宛名シールの作成など、裏方の作業を根気よく続けていただいている若梅氏、数年間、毎月1~2日は徹夜までして発送業務をお手伝いいただいた三好・大村のみなさん、これら全て無報酬、おまけに手弁当です。(いちいち名前が挙げられませんが、他にも多くの方々の支えがありましたことを、もう一度つけ加えさせていただきます。)これら多大な貢献者のみなさまのために、今後はせめて実費だけでも予算化したいと考えております。

加えて、この不況のどん底の中、当方のPR不足や大会等の会場での受付が最

近まならないという努力不足はありますが、購読者数は減少の傾向を示しております。この数が伸びないことと関連して、広告収入は現在ゼロの状態です。

これらの状況を改善するため、また10年という節目にあたり、来年度から先ず発行のかたちだけでも変えてみたいと思ひ、次のようにさせていただきます。

○本誌「O-JAPAN」と「リエテリング・カッター」を別々に発行します。つまり、カッターのみの購読者も募ります。

○前にちょっと述べた、本誌のA4判への拡大は当面見送らせていただきます(印刷費節減のため)。

○本誌の内容の充実を図ります(前記のみなさまのご意見や、購読者アンケートなどを行なって、参考にさせていただきます)。

○リエテリング・カッターはタブロイド判4ページとし、別に第三種郵便の認可を申請します。

○購読料金はそれぞれ次のように改めさせていただきます。

[従来どおり O-JAPAN/ リエテリング・カッターの購読]	3,600円
ただし クラブ購読	3,000円
高校生以下	2,400円
[リエテリング・カッター 裏面=リザルト・コピーのみ]	1,800円
(クラブ・高校生以下 同額)	

なお、本年12月末日までご来年度の継続購読を申し込まれる方は、クラブ購読を除き、旧来の料金 一般: 3,000円、高校生以下: 1,800円でお受けいたします。前に記しましたが、この時期の苦しい台所を助けていただきたく、早めのお申込みをよろしくお願ひ申し上げます。現在、ほとんどの方の購読期限が1994年(平成6年)3月までとな

っております。毎号お送りする宛名シールの右下に、例えば 01-1001-9401とあれば、01が都道府県番号でこの場合「北海道」、1001は購読者番号で、過去に一時的にでも購読された方も含まれます。そして末尾の9403が購読期限を示します。従って、この方は12月末必着で継続購読を申し込まれると、3,000円(高校生以下1,800円)で1995年3月まで購読期限が更新されます。なお、例えば9408のように年度途中が期限となっている方は、95年3月までの残り7か月分を  $250 \times 7 = 1750$  として計算してお支払いいただければ幸いです。O-JAPANは、オリエンティア登録/登録者へJOA公報(JOAのページを作る)/公認・非公認にかかわらず大小の大会のスタート・リストの版下作成と印刷発送/成績表の版下作成と印刷発送などの代行を、JOA機関誌となった場合の将来を考えて、購読者登録を行なっております。従って、毎年4月~3月という「購読期間」を採るため、期限を3月に揃えていただきたいのです。なお、現在でもリザルト・コピーは、みなさまから送っていただく「大会成績表」から、なるべくたくさん載せるため当方で全部打ち直している状況です。前記のスタートリストの作成などは大した負担とはならないということをつけ加えてさせていただきます。

以上、貴重な誌面を費やして長々と述べさせていただきましたが、広報誌「O-JAPAN」の将来的な継続のため、延ては日本の(近隣諸国の)オリエンテリングの発展のため、みなさまのご理解とお力添えを賜りたく、謹んでお願ひ申し上げます。

1993年11月

O-JAPAN発行人  
田口 昭子

O-JAPAN 発行人/田口 昭子	: 購読料 年間4月~3月 ¥3,600	: 編集責任者/田口 肇
〒233 横浜市港南区日野南7-9-5	: (高校生以下) ¥2,400	: Chief Editor: Hajime Taguchi
TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500	: (クラブ) ¥3,000	: Editorial Address:
別室=Annex 0287-77-1977	: '93.10月~'94.3月 ¥1,500	: 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
郵便振替口座/(番号) 横浜7-46870	: 1部あたり頒布価格 ¥300	: Yokohama, 233 Japan
(加入者名) O-JAPAN 編集部	:	: